ニッポン美人化計画

Text: Ryoko Kobayashi

MAKE-UP: UDA (S-14)

MISSION
72
2016.5

PHOTO: shu ASHIZAWA (S-14)
STYLING: Chie Ninomiya
HAIR: KANADA (LAKE TAJO)

“昔っぽさ”に、オリジナリティのある魅力を発見！ 甘いけれど甘すぎない、落ち着いた桜色リップがポイントです。

とっくりセーター ¥3,500(デプト | デプト トウキョウ)ノニットベスト ¥8,900(ロク | ROKU BEAUTY& YOUTH SHINJUKU)

今月のミューズが生まれるまで

髙木美佑さん
写真スタジオ勤務
2016. 3. 13 at Meguro
Photo: UDA

「最近気になっているのが、和風の昔っぽさ。控えめでいて、今どきの流行りとはまた違う、オリジナルの洒落っ気が潜んでいるように思います」と、UDAさん。

そこで声をかけたのが、髙木さん。昭和から抜け出してきたような雰囲気や、“懐かしいムードが好み”という私服がまさにイメージ。

「唇に、桜色のリップカラーをブラシで丁寧に塗りました。“メイクはたしなみ程度”という彼女に違和感を与えずに、しとやかなところをくっきりさせるつもりで」（UDAさん）

このままほかはノーメイクでも良いけれど、「ふと見せる大人っぽい表情も魅力的」と、ごくごく淡いブラウンのアイカラーをプラスした。

「アイカラーは、上瞼だけに塗る人のほうが圧倒的に多いと思うんですが、下瞼の涙袋にも、うっすらと入れました。決して頑張っているようには見えないけれど、ひと味違うひねりになります」（UDAさん）

撮影当日、ベースはCCクリームにチーク、ポイントにマスカラを塗っていた髙木さんのメイクをいったんすべてオフ。素肌に見えるような色付きのベースクリームを塗り、頬の赤みをコンシーラーで抑えて、最初に決めていた桜色リップ(2)が映える下地をつくった。リップメイクは、口紅をブラシに取り、メイク感が出ないように唇の形透りに丁寧に塗り重ねる。シアーなブラウンのアイカラー(3)は、チップを使って、上瞼と下瞼の涙袋にのせ、目尻にだけブラウンのリキッドアイライナーを引く。ネイルは、もともと髙木さんが塗っていたスモーキーなグレーを生かしつつ、右手の人さし指、左手の中指と薬指の3本のみをグリーン(1)に塗り替えた。

3

2

1

1: 光沢感のあるグリーン。ケア効果もあり。ヴェルニ ロング トゥニュ #536 ¥3,200(シャネル)
2: ひと塗りで繊細なピンクベージュが発色。ジバンシイ クチュール コレクション ルージュ・ジバンシイ #102 ¥4,800＊6/3限定発売(パルファム ジバンシイ (LVMH フレグランスブランズ))
3: つややかなアンバー。ディオールショウ モノ #573 ¥3,600(パルファン・クリスチャン・ディオール)

UDA

メイクアップアーティスト。雑誌・広告のファッション&ビューティ、女優やアーティストを担当するほか、舞台のメイクプランニングも手がける。本企画ではモデルハントからディレクションまで。緻密な理論に基づく技は日々進化中。

美人化モデル募集中 『ニッポン美人化計画』では、街でのハントに加え、ページに登場してくれるモデルさんの募集を本格スタートしました！ 自薦・他薦は問いません。
UDAさんのメイクアップで、新しい自分を発見してみませんか？ 受け付けはFacebookから。https://ja-jp.facebook.com/mhginza